新年あけましておめでとうございます。

盟友の皆様には、素晴らしい新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。昨年は、日本全国にわたり災害の多い年となりました。　被災された皆さんには心からお見舞いを申し上げますが、毎年のように訪れる大きな災害に、異常気象では、もはやかたずけられない状況にあることを実感しております。

であればこそ農政にあっては、災害が訪れても、営農が続けられるよう、災害対策を充実させなければなりません。そこで振り返れば、空知を襲った豪雪災害の際、栗山農民協の皆さんをはじめとする、空知農民連合の皆さんの運動と努力で、経営体育成支援災害型が実質的にはじまった事を思い返しておりました。この例を待つことなく農政運動は、農業者の経営向上にとって大切なことであると思います。本年も皆様の実りある運動を改めて期待させていただきます。

その上で本年も多くの農政課題のある年であると思います。

先ずは、これから5年間の農政の柱となる「基本計画」ですが、「食料自給率」や「生産調整」の例を見るように、基本計画が変わることは農政の基本が変わることを意味します。

今回の基本計画でも、食料自給率向上の根幹となる農地面積の減少や生産の実態と自給率向上との乖離をどう考えていくのかが問題となります。また、残念ながら日米貿易協定もスタートします。

すでにTPP11や日EUが発効し、農政にとっては試練の幕開けとなるかもしれません。そのような中では、外国に負けない為の対策も必要ですが、それ以上に、どんな状況でも経営を続けていける本格的な農業経営の安定対策こそが重要ではないかと私自身は考えております。収入保険ばかりでは心もとない状況にあると思います。目的はやや違いますが、水田活用やかつての産地作り交付金等を総合的に改変し、水田も含めたゲタ対策のようなものが構築できないか考えているところです。

農政の今日ある状況を様々考えているうえで、農家にも基本給に相当するものを何とか実現したいと思いますし、かつてのミドリゲタのようなものを農水省、農民協の皆様とも意見を交換しながら、作って行きたいと思っています。

皆様には今年一年のご指導を改めてお願い申し上げ、ご家族皆様のご健康とご多幸を心よりご祈念申し上げ新年のご挨拶にさせていただきます。本年も宜しくお願い致します。有難うございました。

　令和二年新春

衆議院議員　神谷　ひろし